相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすることの指導
～短歌を作成し、発表し合った事例～

学部・教科	高等部・国語科	事例コード	２２１４

学習グループの実態

- 高等部２学年（５名）
- １学年の時の学習では、挨拶状や季節の手紙などに書く語句や文を読んだり書いたりして季節に応じた表現があることを知ることができた。また、生活に身近なことわざなどを知り、それを文章で使うことにより様々な表現に親しんできた。
- 経験したことを書く作文等では、語彙や自分の思いを表す表現の種類は少ないものの、自分の考えや事実を思い出して書くことができてきている。

単元(題材)名

『短歌を作ろう～現代高校生百人一首への応募～』

学習指導要領の内容

国語科／中学部２段階
〔知識及び技能〕ウ（ア）
〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ書くことーア　Ｃ読むことーオ

単元(題材)の目標

＊ 本事例集では、学習指導要領の目標及び内容に基づいた表現に編集しています。

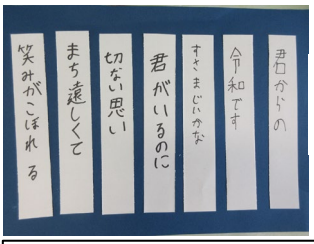
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。【〔知〕ウ（ア）】	相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。【〔思〕Ｂア】 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。【〔思〕Ｃオ】	言葉がもつよさを感じるとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【中学部２段階目標ウ】

単元(題材)の計画

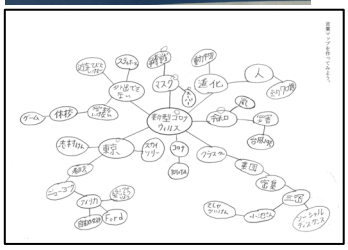
総時数８時間
（１）　短歌、百人一首について知る。・・・・・・・・・・・・・・・１時間
（２）　現代高校生百人一首（過去の入選作品）を読む。・・・・・２時間
（３）　短歌を作る。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４時間
（４）　短歌を鑑賞し、感想を発表する。・・・・・・・・・・・・・１時間

指導の実際

- 過去の入選作品を読んで、その中から生徒が「いいな」と思った表現を、五音、七音に分けて短冊に書き、使いたい語句を選ぶことで、語彙を増やしたり、短歌に使う語句を考えたりすることができた。
- テーマについて関係する言葉をつなげる「言葉マップ」を作ることで、いろいろな言葉を連想することができた。
- 自分が選んだテーマについて伝えたい事実や気持ちを文章にしたり、前時までの学習で出てきた五音七音の言葉を書き出したりし、それらを組み合わせて短歌を詠むことができた。
- テーマや短歌のイメージに合った画像をインターネットで探し、短歌と合わせて掲示し、発表することができた。
- お互いの短歌を聞いて、良いところや好きな表現、感想などを伝え合うことができた。



短歌表現の短冊


言葉マップ

作成した短歌

（令和３年度作成）